



税理士 **本間 貴久** 会員 札幌東支部

ゆりかごから墓場まで

経緯

父親が転勤族であったため札幌市で生まれ
⇒旭川市春光町⇒池田町⇒札幌市と転々とし、
父が転勤族を辞め札幌で税理士事務所を開業。
札幌で高校生活を楽しんでしまい、さらに羽を伸ばしたく東京の大学へ進学、小学1年生から続けていた剣道を大学でも4年間続ける。

大学生3年の時に父から話をされるまで、就職を考えていて「大同生命に入れてもらおうかな」とか考えていました。当時の体育会系なら大学には授業ではなく部活に行くのが当たり前で、試験勉強など検討の余地もなく大学院生生活に突入。時代はバブルが陰りを見せてきた頃でしたが、まだまだ景気が良く、お金がなく時代

から取り残された感があったため税理士事務所(ICS)で働きながら修士論文を書いていた。

東京での華やかな生活を夢見ていたのですが、父が病気になり28歳で札幌に戻り、父の事務所に入所することになる。父は昭和51年に開業し、当初からTKCに入会していたが、私はどうにもTKCの活動が理解できなかったこともあり、税理士登録後3年間は会員登録をしなかった。

事務所の理念を教えてください。

「ゆりかごから墓場まで」のサポートをしたい。「人」の人生って会社だけじゃないから、事業を辞めたとしても、その後もお付き合いをしたいと思っている。会社が儲かればいい訳じゃなく、死んだ時にいい人生だったなって思ってほし



い。だから、「人の死」というところまでお付き合いをしたいと考えている。

目指すはなんでもかんでも相談にのれる町医者になって、応えてあげたいという気持ちがある。一生懸命やっている会社が好きなので、会社のお医者さんとなり、風邪を引いたらお薬を出したり、外科的な手術もしたり、ときには嫌なことも言わないといけないけど、当たり前のことを当たり前に行う事務所を目指している。

父は、お客さまとは「牧歌的な付き合いをしたい」とよく話していました。顔が見える、お金だけで繋がっていない人間対人間の付き合いをしたい。そんな父の性格もあり、お客様同士の親睦交流会「ほんま会」をお客様が発足してくれた。昭和56年からスタートして、今でも新年会やゴルフ会、ビール会、道内旅行など続いている。



TKCでの活動を教えてください。

札幌東支部の総務委員から始まり、NMS委員長、総務委員長、副支部長、企業防衛委員長…といろいろとやってきた。辛かったのは、私の



前のシステム委員長だったT先生にだまされ、北海道会システム委員長で電子申告の推進をさせられたこと、当時研修所長だったU先生にだまされ、中級（現：巡回監査士補）の所得税の問題集と試験問題を3年間作らされたことでしょうか。

システム委員長になったのもシステムが得意なわけではなく、T先生に「もうやることがないので忙しくないから」と言われて受けたのです。電子申告の普及は、今と違って税務署・国税局で詳しく理解している方が少なく、情報の収集が難しくTKC会員の理解もないなかで、全国会目標を達成するのに必死になってやっていた。ただ、システム委員会だけではなくみんなが協力してくれたので、目標を達成した時は本当に嬉しかったですね。

職員研修小委員会は、一人で問題集を作り、一人で試験問題を作るという全く考えていなかった仕事をさせられました。U先生は、「年に何回か東京で涼んでおいで」とゴルフ場で話され、断った次の日に「締め切り今日までだから受けてくれ」でした。

—そんなに色々とやられて、大変じゃないですか？

組織作りを若い人たちがやっていかないと、会が成り立たない。今まで、次の世代のためにと



やってこられた方々と同じように、TKCが脈々と続くために、北海道会全体でやっていかないと。会務は、同じ方向性を持った会員と共に、楽しく活動することが大切。やりがいがないとね。

趣味はなんですか？

仕事と言いたいのですが、仕事は趣味にはなっていない。

ゴルフがやはり趣味でしょうか。ゴルフ歴は長く、高校生でゴルフクラブを初めて握って、大学生の時にラウンドした時のわくわくした気持ちが今も続いています。ゴルフをプレイすることも好きですが、仲間と仕事の話をしたり会務の話をしたり時間を共有することが楽しいのかもしれませんが。年に30回くらいプレーをしますが、自分から誘うことはほぼなく、誘われたら断れない人間です。その他の趣味はこれとってないのですが、家でボーっとしたり、疲れてるから寝てようという発想がなく、時間ももったいないと思うから、愛妻と出かけていることが多いです。

TKC会員へのメッセージ

入会しないとTKCの良さには気づきません。入会しても会員同士の関わり合いがなければTKCの良さには気づきません。関わり合いがあっても、一部の会員だけとの関わり合いならTKCの良さには気づきません。

入会してみると、自分の意に反してやらされることもありますし、自分の意見を否定されることもありました。もしTKCに入会していなかった

取材を終えて

事務所には地域の方が良く来るそうです。また、お客様が離れていくこともほほないそうです。また、本間会員のありとあらゆる人生の節目で何度も名前があがっていたH会員。親子2代にわたっていろいろと影響を受けていたそうです。人との繋がりを大事にされている事務所ならではの強みを見せていただきました。ご協力ありがとうございました。

ら、自分がどの方向に進めば良いのかを自分で考え、自分で決めて走り続けなければなりません。

TKCブランドという言葉を使う会員がいます。TKCに入会したらブランド

があるのでしょうか、システムを利用したらブランドがあるのでしょうか、スピーディーで正確な情報を利用できることにブランドがあるのでしょうか。TKCのブランドは、血縁的集団から生まれてきていると思います。

悩んだときには相談に乗ってくれるし、色んなことを包み隠さずに教えてくれて、横道に逸れると叱ってくれる、上もなければ下もない。そんな関係だから、知恵を絞りだし、貴重な時間を費やし会員のために、そして自分のために活動している集団であることがTKCブランドだと思います。セミナーだけでは伝えられない、泥臭い部分をもっと知ってほしいし、そんな組織になってほしいので、自分で飛び込んで来てほしい。

思うだけ、考えるだけなら誰でもできる。行動することが大事だと思う。自利利他とは何かを今一度考えてみてほしい。

心に残ったお言葉

「ひとえに、父が周りから好かれていた。築いてくれた人間関係をそのまま引き継いでみんなが可愛がってくれてると感じる」という言葉がとても私の心に残りました。

(広報委員 李 香純)

